

次世代を担う若者を応援する学生コンペティション
JIDF『学生文化デザイン賞 2019』
グランプリは、磯部佑太さん(日本工業大学)に決定！

アート、デザイン、建築、科学、文学、食、音楽など多彩な分野で活躍する専門家がジャンルの垣根を超えて活動する一般社団法人日本文化デザインフォーラム（理事長：水野誠一、以下JIDF）は、次世代を担う若者の応援を目的としたコンペティション、JIDF『学生文化デザイン賞2019』（実行委員長：中島信也）のグランプリを決定するファイナリスト・プレゼンテーションを実施。JIDF選抜会員（黒川雅之、榎本了吉、竹中直純、マエキタミヤコ）による公開審査（アワード決定バトル）およびJIDF会員投票を経て、磯部佑太さん（日本工業大学）の「拡張身体abii（アビー）」がグランプリに決まった他、準グランプリ2名を下記のとおり選出しました。

グランプリの「拡張身体abii（アビー）」は、“日本の現代社会における身体問題への取り組みとして、義肢を健常者が日常生活で率先して使用することにより、装着者に対する抵抗感の軽減を目指す”プロジェクトで、着眼点の斬新さや今後の展開への期待感などが評価され、この度の受賞に至りました。

■ **グランプリ（賞金 30 万円×1 名）**

受賞者	在籍	出身地	タイトルおよび概要
磯部 佑太 (いそべ ゆうた)	日本工業大学	宮崎県	「拡張身体 abii（アビー）」 今の日本で装具は、機能より装飾性を重視し使いやすさよりも周りの視線を気にする傾向が強い。そこで健常者が率先して義足を生活の中で使うことで、装具使用への抵抗感の軽減を目指す。

■ **準グランプリ（賞金 10 万円×2 名）**

受賞者	在籍	出身地	タイトルおよび概要
出口 大成 (でぐち たいせい)	慶應義塾大学	山口県	「smart bell」 歩行者による歩きスマホや、高齢による難聴のせいで音が聞こえていないなど、今の自転車のベルは時代に合っていない。そこで、ベルを電子化させた次世代のベル、それが「smart bell」。
野澤 美祐 (のざわ みゆ)	法政大学大学院	神奈川県	「DEEAR（ディア）-害獣とされるニホンジカの角を用いたジュエリーの制作・ブランドの提案-」 日本各地で農作物や森林に被害をもたらすニホンジカの害獣問題。そこで駆除されたニホンジカの角を活用したジュエリーブランド「DEEAR」を提案。「日本の自然」を考えるきっかけづくりを目指す。

また、今回はJIDF協賛社による協賛社賞が設けられ、各社の独自選考により受賞者を選出しました（次頁参照）。

JIDF「学生文化デザイン賞」は、これからの時代を担うであろう若者たちが、どのようなことを考え、取り組んでいるのかに着目し、その考えや取り組みを応援したいとの想いで昨年創設。全国の学生を対象に「今考えている、進行しているクリエイティブなプロジェクトやコンセプト」を作品として幅広く募集し、一次審査（書類選考）を勝ち抜いた6組のファイナリストが、応募内容についてのプレゼンテーションを行う二次審査（ファイナリスト・プレゼンテーション）に挑みました。

JIDF では、今後も若者たちの斬新なアイデアを発掘・支援する取り組みとして、「学生文化デザイン賞」の継続的な実施を目指してまいります。



グランプリを受賞した
磯部佑太さん



登壇した6組の
ファイナリスト

【協賛社賞】

賞	受賞者	在籍	タイトル
博報堂賞	柴山 恵	首都大学東京	「スクリバ」
丹青社賞	末永 共助	奈良工業高等専門学校	「楽しむ！認知症予防プロジェクト」
大日本印刷賞	出口 大成	慶應義塾大学	「smart bell」
ティー・ワイ・オー賞	末永 共助	奈良工業高等専門学校	「楽しむ！認知症予防プロジェクト」
東北新社賞	磯部 佑太	日本工業大学	「拡張身体 abii (アビー)」
乃村工芸社賞	末永 共助	奈良工業高等専門学校	「楽しむ！認知症予防プロジェクト」

JIDF『学生文化デザイン賞 2019』ファイナリスト・プレゼンテーション進出者（6組）



出口 大成（でぐち たいせい）

2000 年生まれ。山口県下関市で生まれ育ち、高校卒業後、一浪を経て、現在慶應義塾大学総合政策学部 1 年。大学に入ってからものづくりに目覚め、現在は田中浩也研究会にて 4D ファブリケーションを勉強中。



磯部 佑太（いそべ ゆうた）

日本工業大学工学部情報工学科 4 年。研究室ではプログラミング教育を通じた地域コミュニティの形成や特別支援学校向けのアプリやゲームの制作を行っている。その経験を元に現在はハードウェアとソフトウェアの両方のアプローチから身体問題の改善を試みている。



柴山 恵（しばやま めぐみ）

首都大学東京法学部法学科 2 年。不登校問題について大学の講義を経て知り、自ら経験者へのインタビューやフリースクール訪問に出かけ勉強。とにかく彼らのために何か行動を起こしてみよう！と思い立ち「スクリバ」を企画する。食べるのが大好き。好きな食べ物はからあげ！



清水 淳史（しみず あつし）

1994 年滋賀県生まれ。現在は九州大学大学院で情報編集デザインを専攻。高専在学時にタイへ一年間留学したことがきっかけで東南アジアへ興味を持つ。昨年カンボジアで開かれたデザインとアートの展覧会を機に「クメール美術復活プロジェクト」に参加。



末永 共助（すえなが きょうすけ）、他 3 名

国立奈良工業高等専門学校機械工学科に在学中。幼少期からものづくりが好きだった。奈良高専で機械工学を学ぶと同時に、福祉の分野に着目したものづくりに取り組みたいと考えるようになる。中でも認知症に注目し、認知症対策に役立つ新たな機器の開発を試みている。



野澤 美祐（のざわ みゆ）

神奈川県横浜市生まれ。法政大学大学院システムデザイン専攻に在学中。クリエイション・テクノロジー・マネジメント、3 つの分野を横断した知のリソースを活かし、統合的なデザインの視点で制作・研究を行う。現在はコミュニケーションデザインに興味があり、日々勉強中。

<ご参考>

JIDF『学生文化デザイン賞 2019』実施要項

- 名 称：JIDF『学生文化デザイン賞 2019』
 - 主 催：一般社団法人日本文化デザインフォーラム（JIDF）
 - 協 賛：株式会社博報堂／株式会社 AOI Pro.／株式会社丹青社／大日本印刷株式会社／株式会社テー・オー・ダブリュー／株式会社ティー・ワイ・オー／株式会社東北新社／凸版印刷株式会社／株式会社乃村工藝社／株式会社ムラヤマ
 - 実行委員長：中島信也（CM ディレクター／JIDF 代表幹事）
 - 募集内容：今考えている、または進行しているクリエイティブなプロジェクトやコンセプト
例えば…
「シャッター商店街再生デザインフェスティバル主催！」「世界を動かすすごいプログラムを開発した」「俺は音楽で世界をよくする方法を知っている！教えないけど…」などテーマやジャンルは自由。新たなイノベーションを創出するコンセプトを期待します。
 - 応募資格：大学生、専門学校生（個人・グループは問わない）
 - 応募方法：・JIDF ホームページ(<http://www.jidf.net/>)よりエントリーシート(応募要項記入ファイル)をダウンロード
・上記シートに必要な事項(①氏名、②学校・学部・専攻名、③応募者のプロフィール、④プロジェクトタイトル、⑤連絡先)を記入の上、プロジェクトシート(下記参照)とともに、下記アドレス宛に E メールで応募
- <プロジェクトシートについて>**
- ・A4 サイズ横書き(3 枚まで)で、プロジェクト内容を分かりやすくまとめてください。A4 横書きであれば、表現方法(画像の添付等)は問いません。
 - ・Microsoft PowerPoint、Microsoft Word、PDF のいずれかの形式の電子ファイルにて作成し、総容量 3MB 以内で提出してください。
 - ・審査は、A4 原寸カラーにて出力して行います。文字の大きさや画像の解像度などにご留意ください。
- 【応募先アドレス】 jidf-gakusei@jimukyoku-moushikomi.jp**
- ※原則未発表のものに限ります（但し、既に発表されたものでもブラッシュアップされていれば可）
 - ※内容に関して問い合わせる場合があります
 - ※応募作品の返却は致しません
 - ※応募の際に取得した個人情報、本件の審査および応募者への諸連絡以外には使用いたしません。一次審査通過者は、プロジェクト名、学校および氏名をイベント(二次審査)来場募集告知媒体等に掲載させていただきます。同意いただける方のみご応募ください
- 応募締切：2019年8月25日（日）必着
 - 審 査：一次審査
JIDF 会員による書類審査を行い、ファイナリスト 6 人(組)を選出
二次審査
11月15日（金）に、東京・渋谷のLOFT9 Shibuyaにて、ファイナリスト6人(組)による各15分間のプレゼンテーションを行った後、JIDF選抜会員による公開審査（アワード決定バトル）および会員投票を経て、グランプリおよび準グランプリを決定
 - 賞 賞：グランプリ／賞金 30 万円、準グランプリ／賞金 10 万円

日本文化デザインフォーラムについて

日本文化デザインフォーラム（Japan Inter-Design Forum /JIDF)は、アート、デザイン、建築、科学、哲学、文学、評論、伝統芸能、都市計画、写真、食、音楽、映像など、多彩な分野の先端的な活動をしている専門家約 90 名が自発的に集まった任意の団体です。それぞれの専門ジャンルの垣根を超えて会員相互で交流・啓発しあうことで、これまでにない発想を生み出し、多角的な視点から日本及び世界の「文化をデザイン」することを目的に活動しています。

1980年の設立（旧組織名称：日本文化デザイン会議／～1989年）以来、国内の主要都市で30回を超えるフォーラムを開催してきました。2011年8月からは「一般社団法人日本文化デザインフォーラム」として新たにスタート。本フォーラムの発起人である建築家・黒川紀章の七回忌にあたる2013年より、「INTER-DESIGN FORUM TOKYO」を毎年開催し、デザイン、建築、アートなど、さまざまな分野を牽引するプロフェッショナル達のメッセージを発信し続けています。また、2018年には次世代を担う若者支援の取り組みとして、「JIDF学生文化デザイン賞」を新たに創設しました。